

# 大源太山山行報告



【山行日】2016年6月19日(日)

晴れ後曇り後雨

【集 合】岩舟支所P AM 6:00

【費 用】マイカー2台 : 3,500円

【メンバー】CL: 鈴木ユ、石川、大西、梶内、島田、  
関、津佐、藤原、松館、渡辺

【コースタイム】岩舟支所 P6:00=大源太山登山口  
P7:50/8:10~第一渡渉点 8:30~第二渡渉点 8:50~  
弥助尾根取付点 9:55~大源太山 11:15/11:25~  
ブナ尾根広場 12:45/13:15~第一渡渉点 14:05~  
大源太山登山口 P14:20~=岩舟支所 P16:50

無名の「大源太山」だが、「上越のマッターホルン」と呼ばれる山に興味を示し、予想外の参加者があった。先週平標山から見た大源太山は、セツ小屋山の脇に低いながら天空に突き上げる山容が迫力満点で、登降意欲をそそられた。

関越道を北上し湯沢 IC で降り、コンビニでトイレを済ませ登山口に向かう。登山口駐車場に着くと、すでに満車で他の車の邪魔にならない場所に車を突っ込む。

準備を整え、ストレッチを済ませ出発する。

登山口入口の標識脇を進み、樹林帯の平坦な道を進むと15分くらいで第一渡渉点に出る。飛び石で渡るが、沢幅が広く水量も少ないので難なく渡れた。



北沢の左岸を進み、すぐにシシゴヤノ頭への道を右に分け沢沿いに登って行く。支沢を2箇所ほど渡るが、一箇所はアルミの梯子を登って越えて行く。ほどなく北沢第二渡渉点に着き、ここは飛び石伝いに対岸に渡るが、水量が少なくロープが張ってあるので問題なく渡れる。沢を渡って数メートル

登り、尾根に取りつく。

ここからは滑りやすい急坂が続くが、ロープが張られているので問題なく登れる。

ロープが無くなるとブナの根が張りだした道となり少し明るくなってくる。登るにつれ風が強くなり、ヤセ尾根を登るようになると体が風におられる。標高1300mあたりまで登ると、岩稜帯になり増々風当りが強くなる。山頂も見え、周りの山々の眺望も良くなってくるが、風が強くと眺望を楽しむ余裕が無い。鎖がつけられた痩せた岩尾根を軽快に登り、最後の急登を頑



張ると大源太山頂に出る。山頂は南北に細長く、展望は抜群で苗場山や荒沢山、先週登った平標山や仙ノ倉山等の展望が広がる。



山頂で昼食を食べ、セツ小屋山方面へ少し下って大源太山の鋭鋒を眺める予定だったが、風が強くて我慢できない。

グレープフルーツや菓子を食べて、記念写真を撮って早々に下山する。

下り始めるとすぐにクラブツーリズムの30名のグループと交差し、ヤセ尾根での交差に時間が掛かった。

風の無いブナ林の尾根まで下り、少し広がった場所でランチタイムとする。温かい天ぷらうどんと、イカとジャガイモの煮つけや真竹の煮

つけなどが並び、超豪華なランチを楽しんだ。

今日は女性が多く、フルーツやおやつも豊富で食べ切れない。下山途中の沢を渡り終えたら、おやつタイムを取る予定だったが、丁度その手前から雨が落ちて来たので休まず駐車場に急いだ。

駐車場に着くと、女性達がおやつをチェックし銀座の高級カステラと解ると目の色が変わった。

何としても食べたいと、雨の中で切り分け皆さんに配り美味しくいただいた。本当にその根性には頭が下がった。次回はその根性を、山登りに生かしていただきたいが……

予想外の強風に翻弄された大源太山だが、今回の岩稜の急登は夏山のアルプス山行の良いトレーニングになったと思う。

